

新春のあいさつ

議長

倉持 功



昨年4月30日、31年間続いた「平成」が幕を閉じ、5月1日には、新たな「令和」時代の幕が明けました。

輝かしい「令和」初の新春を迎え、町議会を代表いたしましたして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、日頃より境町議会に対し、ご理解・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

わが国では、2020東京オリンピック・パラリンピックの成功に向け、オールジャパンでの取組を加速させており、境町においても、ホッケーコート並びにテニスコート等の整備を進め、アルゼンチン共和国選手団の事前キャンプ誘致の成功に向け、鋭意準備を進めております。

また、昨年12月には、友好都市であるハワイ州ホノルル市のアリアマヌ中学校と、境町立境第一中学校並びに境第二中学校が姉妹校を締結いたしました。

この締結により、ホノルル市への英語留学を実施するなど、フイ

リピン人英語講師による先進的な英語教育「スーパードグローバルスクール事業」と併せ、更なる教育環境の充実により、世界で活躍できる人材の育成に繋がるものと確信しております。

子育て支援政策においては、昨年10月の保育料無償化に合わせ、町独自補助として3歳から5歳児の給食費を無料化し、小中学校における給食費の補助等と併せ、子育て支援日本一を目指す取組を推進しております。

また、移住定住政策におけるPFI方式住宅も現在3期目の工事を進めており、商工・観光事業においては、新国立競技場の設計を手がけた隈研吾氏によるレストラン「茶蔵」をはじめ5つの建物が建設され、街なかにおける交流人口の増加が見込まれております。

防災関連事業においては、東京大学大学院・片田敏孝特任教授の監修による「逃げどきマップ」が完成し全戸配布されました。

昨年10月には、全町を挙げての避難訓練を、県並びに近隣市町と

の合同実施に向け計画を進めてまいりました。しかしながら、訓練実施直前に発生した台風19号は、茨城県内において那珂川をはじめ5河川、12箇所 の堤防を決壊させるなど甚大な被害をもたらしました。当町においても利根川の決壊に備え「避難指示」を発令し、古河市及び坂東市への広域避難を余儀なくされ、訓練の実施には至りませんでした。

議会といたしましても、昨年の教訓を活かし、「災害に強いまちづくり」、「犠牲者ゼロのまちづくり」を再度検討し、構築していかなければならないと考えております。

私たち議会は、未来に展望の持てる、安心・安全な住みよい町を創るため、町執行部と共に境町の両輪となり、常に住民目線で町を見つめ、町民の皆様の負託に応えるべく、本年も関係各位との連携を深め邁進してまいります。

結びに、境町の発展と町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。